



社会規範が子どもの環境行動に及ぼす影響：親子ペアによる分析

安藤香織¹・依藤佳世²・大沼進³・
杉浦淳吉⁴・菊地真理¹

(¹奈良女子大学生生活環境学部・²(社)国際経済労働研究所・³
北海道大学文学研究科・⁴愛知教育大学教育学部)

mail : andok@cc.nara-wu.ac.jp (安藤)



子どもの環境配慮行動

- 親子間の規範の伝播への着目
 - 経年比較のデータでは、親の行動が主観的規範の認知を媒介して、子どもの環境配慮行動に影響を及ぼしていた(安藤、2009ほか)



本研究では、子どもの環境配慮行動に影響を与える要因について、親だけでなく社会からの影響を検討するため、**社会規範(社会全体での記述的規範)**の影響に着目して分析を行う。

記述的規範の影響

- 命令的規範と記述的規範 (Cialdini et al., 1991)
 - 命令的規範: 他者が何を望んでいるかに関する規範 (例: ポイ捨てしてはいけないという張り紙)
 - 記述的規範: 多くの人が行っている行動の認知と、それを社会的に認められていると解釈することによる規範 (例: 道ばたにごみが散らかっている → ここではごみをポイ捨てしてもよいと解釈)
- 記述的規範が環境配慮行動に及ぼす影響
 - 日米の大学生を対象に調査を行ったところ、国全体の記述的規範が自身の環境配慮行動に影響を及ぼしてしていた (Ando et al., 2007).
 - 「国中でどれぐらいの人がその行動を実行しているか」と自分の行動との関連
 - 本人が意識しなくても、記述的規範は環境配慮行動と強く結びつく (Nolan et al., 2008)
 - なぜ環境配慮行動を取るのか、と尋ねられると社会的利益などを上位に挙げるが、実際には「近所の人々がどれぐらい実行していると思うか」と自分の行動との関連が最も強い

目的

■ 分析の焦点

- 社会規範(社会全体での記述的規範)と親の行動が、子どもの環境配慮行動に及ぼす影響を検討する。
- 親と子のペアデータにより、親と子の環境認知・行動の関連を分析

■ 仮説

1. 小学生にとって国全体の人々の行動を意識する場合は少ないため、親の方が社会規範の影響を受けやすい
2. 親の行動は子どもの行動に影響を及ぼすため、社会規範は親の行動を通して子どもの行動に影響を与える

方法

- 対象者：
 - 名古屋市内の2つの公立小学校の5, 6年生とその保護者
 - 対象者は、その学年の児童全員とした
- 手続き：
 - 担任教員より、クラスの児童全員に、子ども用と親用の質問紙を配布してもらった。
 - 児童は家にそれを持ち帰り、保護者に質問紙を渡す。
 - 質問紙は児童と保護者それぞれ別々に回答。同じ封筒に入れて封をする。それを小学校で回収した。
- 有効回答数:225組(有効回答率 75.3%)
- 調査期間:2009年1月～2月
 - 同様の調査を2007年、2008年にも実施している。本調査では2009年のデータのみを用いた。2007年からの経年変化については、昨年度の社会心理学会において報告(安藤ほか, 2008)

質問紙



■ 行動

- 「使った紙を他のごみと分けている」(他1項目)

■ 認知変数

■ 個人的規範

- 「環境のために、自分は使った紙を分けるべきだと思う」(子のみ他1項目)

■ 主観的規範

- 「(親)私の家族は／(子)自分の親は、私に使った紙を他のごみとは分けてほしいと思っている」(子のみ他1項目)

■ 行動統制感

- 「使った紙を資源回収に出すために取っておくのは難しい」

■ 社会規範

- 「日本の社会全体でどのくらいの人が使った紙を他のごみと分けているか」(他1項目)

■ 友人の行動

- 「友だちは、いつも使った紙を資源回収に出すために取っておいている」

■ 親子間の環境コミュニケーション

- 「子どもに、ごみ問題は名古屋市で深刻な問題になってきていることについて話している」(他3項目)

回答者の属性(%)

子 (N=225)	性別	男性 51.6	女性 48.4	
	年齢	10歳 9.9	11歳 50.7	12歳 39.5
親 (N=225)	性別	男性 4.0	女性 96.0	
	年齢	30代 40.5	40代 58.1	50代 1.4
	居住形態	一戸建て 42.8	集合住宅 56.8	その他 0.5



Fig.1 親子の認知・行動のt検定

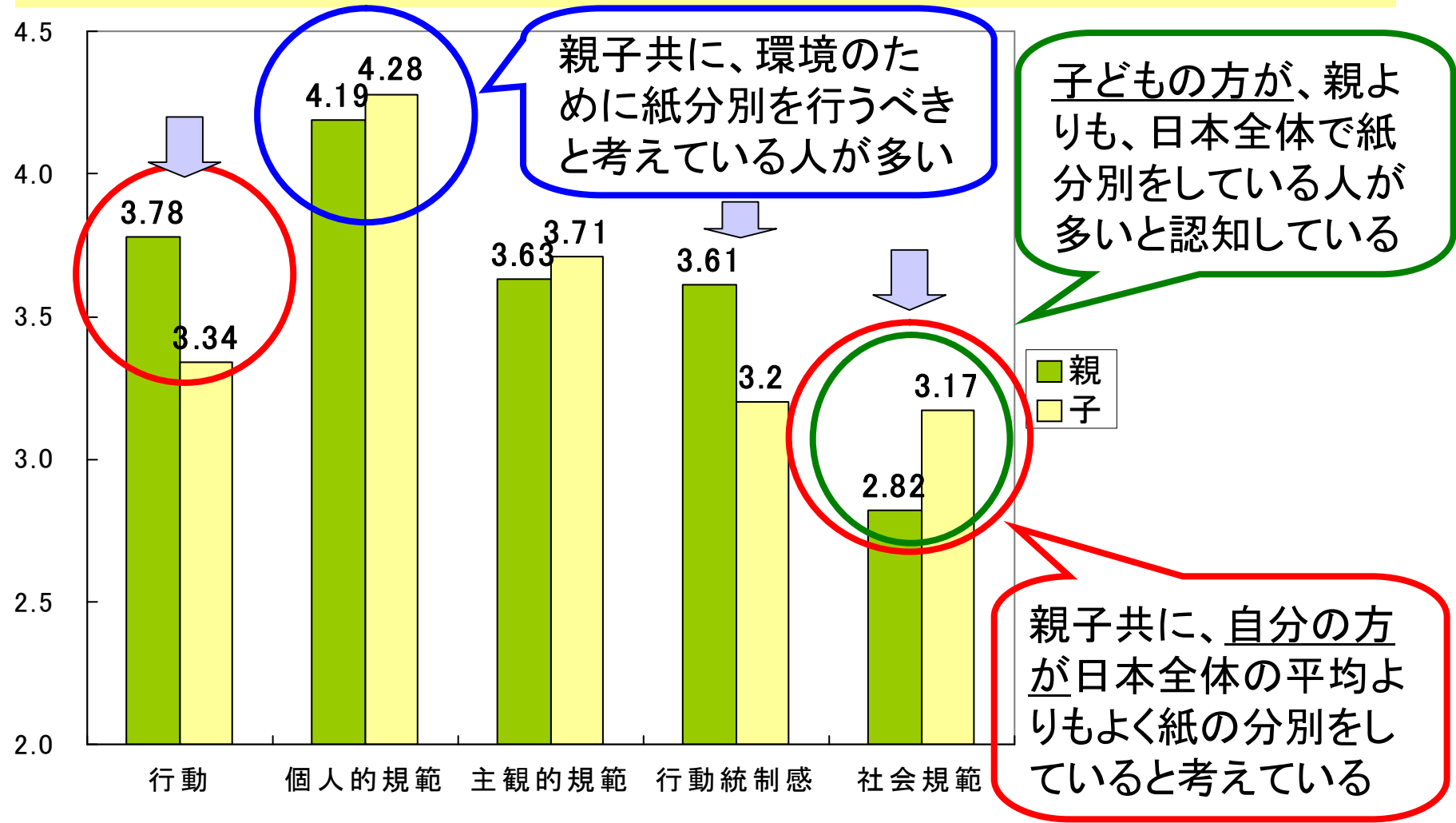


Table.1 親子の環境配慮行動の重回帰分析

	子	親
個人的規範	.13*	.37***
主観的規範	.30***	.22***
行動統制感	.18**	.17**
社会規範	.23***	.13*
親／子の行動	.10 [#]	-.01
<i>N</i>	222	223
<i>F</i>	25.8***	40.1***
<i>R</i> ²	.36	.47

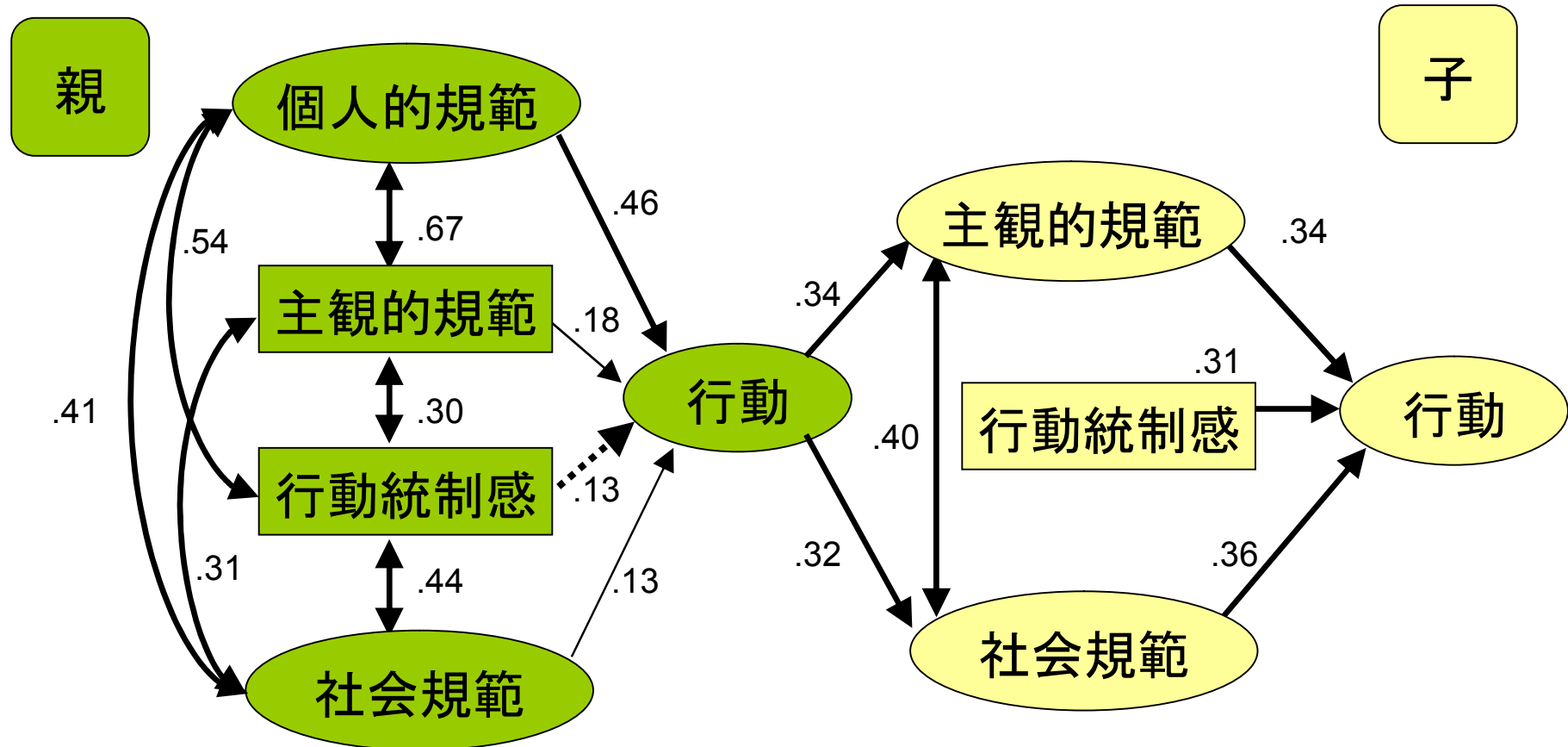
行動の最も強い規定因
 子…主観的規範
 親…個人的規範

社会規範の影響
 親よりも子どもの方が、
 行動に及ぼす影響は大きい

Note. 数値は偏回帰係数

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, # $p < .10$

Fig.2 親子の環境配慮行動の共分散構造分析



(\rightarrow $p < .0001$, $\cdots \rightarrow$ $p < .05$, \dashrightarrow $p < .10$, $GFI = .915$, $CFI = .948$, $AGFI = .868$, $RMSEA = .070$)

子では、個人的規範から行動のパスは有意とならなかった

Table.2 子どもの社会規範の 重回帰分析

	子の社会規範
親の行動	.16*
友人の行動	.36***
環境コミュニケーション	-.01
N	222
F	15.1***
R^2	.16

Note. 数値は偏回帰係数

*** $p < .001$, * $p < .05$



友人の行動の影響
親の行動や環境問題
について親子間で話し
合う頻度よりも、友人
の行動の方が、子の
社会規範に及ぼす影
響は大きい

考察

■ 子どもの方が社会規範の影響が強い

(仮説とは逆の結果)

- 親は、個人的規範の方が強い影響(自分自身の価値観)
- 子どもは、親からの期待(主観的規範)の影響も強い



子どもの方が、親や社会全体の規範からの影響を受けやすい

- 自分自身の価値観(個人的規範)が確立していないため、他者からの影響に対して敏感な時期なのでは。
- 親や社会全体の価値観を身につけ、それが自分自身の価値観となっていく(社会化)



考察・2

- 合意性の過大推測 (False consensus) の可能性も

自分は紙分別
している

「社会全体でもみんな
やっているのだろう・・・」

- 社会規範の認知には、友人の行動が影響

「周りの友人が
やっている」

「社会全体でもみんな
やっているのだろう・・・」



引用文献

- 安藤香織・依藤佳世・大沼進・杉浦淳吉 (2009) 親から子への環境配慮の規範・行動の伝播: 縦断的研究(1) 日本社会心理学会第50回・日本グループ・ダイナミクス学会第56回大会合同大会発表論文集p344-345.
- 安藤香織・依藤佳世・大沼進・杉浦淳吉・平井純子・Ellen Matthies・Sebastian Selge (2008.11) 親から子への環境配慮行動の伝達過程: 日独比較 日本社会心理学会第49回大会発表論文集p26-27. (鹿児島大学・志学館大学・鹿児島女子短期大学)
- Ando, K., Ohnuma, S. & Chang, E.C. (2007) Comparing normative influences as determinants of environmentally- conscious behavior between the U.S. and Japan. *Asian Journal of Social Psychology*, 10, 171-178.
- Cialdini *et al.* (1991) A focus theory of normative conduct: A theoretical refinement and reevaluation of the role of norms in human behavior. In L.Berkowitz (ed.) *Advances in experimental social psychology*. Academic Press. 24, 201-234.
- Nolan *et al.* (2008) Normative social influence is underdetected. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 34, 913-923.